

○令和6年度 行動計画実績表(経営ビジョン)

項目		取組内容	令和6年度行動計画実績(実績報告)	実績値
				合計
(1)診療部門	1 新しい取組	① デジタル化への対応 ・オンライン診療 ・オンライン資格認証システムの活用	新型コロナ感染の流行が緩やかになり、オンライン診療のニーズも落ち着いたことで、今年度は72件を小児科の患者をメインとして行った。	72件
		② 診療科目の新設	外来アンケートを26日間で139件の回答があり、新設希望科では皮膚科(31.1%)が一番多く、次は眼科(26.6%)であった。オンライン診療については、どちらともいえない(52.5%)、利用したくない(25.2%)、利用したい(20.9%)の結果であった。	-
	2 専門外来の充実	① コロナアフターケア外来の実施	今年度の新型コロナ感染者は軽症が多く、流行も少なかったことから、後遺症患者は少なく、32件にとどまった。	32件
		② 起立性調節障害専門外来の拡充	通院患者の症状の安定や通院頻度の減少により、年間延べ352人うち新患1.7人/月で令和5年度実績延べ402人うち新患1.8/月を下回った。	352人 (1.7人)
		③ 小児頭痛外来の拡充	外来枠増加により外来延べ人数は449人となり、令和5年度実績(368人)を上回ったが、初診患者数は25人で令和5年度実績(29人)を下回った。	449人 (25人)
		④ アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法の取組	新規導入件数は27件で令和5年度実績(31件)を下回った。	27件
		⑤ 喫煙者への禁煙指導及び治療	チャンピックスの入手困難が持続し、代用としてニコチンパッチによる禁煙治療を4件行った。2件は治療を自己中断され、2件は次年度へ継続した。	4件
		⑥ 認知症患者のサポート	認知症疑い患者への外来看護師のサポートは新規5件であるが、認知症初期集中支援チームとしては、新規3件の患者支援を開始した。	サポート 新規5件 継続7件 チーム 新規3件 継続1件 (実件数)
	3 在宅医療の推進	訪問診療とオンライン診療の併用による在宅療養者支援の充実	外来訪問診療は新規2人導入したが、長期継続していた1人が当センターに入院のち施設入所となった。ほほえみの郷へは定期往診を継続している。	外来訪問診療 3件 ・特養往診 のべ71回 (実件数)
	4 独居高齢者等の積極的受入れ	① 独居高齢者や生活困窮者等への必要な医療の提供	身寄りのいない独居高齢者や生活困窮者は、積極的に医療が受けられるように対応をすることができた。	12件
		② 市の福祉部や地域包括支援センターとの連携	地域包括や訪問看護等と連携を取り、情報交換しながら状況を把握することができた。	18件
	5 認知症初期集中支援	① 認知症初期集中支援チームによる認知症患者及び家族の支援(再掲)	包括からの相談に対し、認知症初期集中支援支援チームを早期に配置し個別訪問や早期受診などの対応を行うことが出来た。	対象者 4人 (新規3) (実人数)
		② 医療・介護サービスとの連携による認知症患者の支援(再掲)	医師を中心に対象者の方向性についてチーム員で会議を行い、適切な医療・介護のサービスにつなげることができた。	対象者 4人 (新規3) (実人数)
	6 医療介護相談窓口の設置	地域医療・介護連携窓口の設置による円滑なサービス提供	積極的に相談を受け、適正なサービスが提供できるように連携を取りながら行うことができた。	1302件
	7 診療スタッフの接遇向上	利用者アンケート実施し、適切なサービスの提供を実施	7月にニーズ調査を行い、集計結果(139件)を報告した。11月に満足度調査を実施し、集計結果(120件)を報告した。	259件
	8 在宅療養患者の積極的受入れ	・レスパイト入院、在宅療養患者・介護施設からの受入	レスパイト入院も定期的に利用されている患者や、介護施設からの受け入れも積極的に受けることができた。	22件

○令和6年度 行動計画実績表(経営ビジョン)

項目		取組内容	令和6年度行動計画実績(実績報告)		実績値	
					合計	
(2)地域 ケアサ ービス部門	1	良質な訪問看護 サービスの提供 及び利用者サ ービス向上	①	各機関との連携による訪問看護サービスの提供	認知症や精神疾患の方や高齢の方が、病院受診やデイケアの利用など介護サービスをを上手に使用できるようケアマネや病院の職員に連絡し、積極的に連携をした。	490件
			②	在宅療養が送れるように24時間対応体制の充実	急変時の相談や訪問の対応した。利用者の状況に合わせ対応している。	151件
			③	看護技術向上のための勉強会・研修の実施	感染症研修は、手指消毒、ガウンテクニックの実技を行った。人工呼吸器研修は取り扱い等をメーカーから講習を受けた。	10回
			④	看護学生受け入れ	1グループ、2人の看護学生を計14人受け入れた。学生も感染対策をし、実習行っている。	14人
			⑤	理学療法士・作業療法士との連携	職員間で訪問状況を情報共有している。生活動作やリハビリメニューなどを看護職とリハビリ職間で意見交換をし、適切なケアにつなげた。	43人
	2	市内の地域包括支援センターの後方支援	市内の地域包括支援センターとの連携強化	年間4回開催。各圏域の生活課題を共有するとともに、市全体で検討が必要な案件については、市と包括が参加する会議へ議題として提出した。	5回	
	(3)経営 的視点 の取組	1	年次目標の設定・管理による職員の意識啓発	①	経営会議を定期的に開催し、経営ビジョンの進捗管理の実施	経営会議を開催し、令和5年度実績、令和6年度中間報告について報告し、経営ビジョンの進捗管理を行った。
②				経営情報の職員への周知	経営情報を経営会議の開催の際に、適宜周知を行った。	3回
③				診療科目別の目標設定・管理	目標設定された数値の管理を行った。	-
2		経費等の見直し	①	薬品管理徹底、後発医薬品切り替え	医薬品の選定は、有効性及び安全性を十分に検討し価格を配慮した上で採用を行った。また、製品の取り扱いやすさや安定した供給・流通を踏まえ後発医薬品を採用し切り替えを促進した。(切り替えを行った品目数)	4品
			②	契約内容の見直しによる委託費削減	医療機器の賃貸借契約について、再リースの金額を精査し、1,193千円減額することができ、R7年度予算に反映した。	-
			③	診療報酬改定時の対応	6月の医療保険・介護保険診療報酬改定にあわせて、システムの改修及び届出を実施した。	-
3		職員の適正配置	職員の適正配置	会計年度任用職員について、適切に配置することができた。	-	
(4)公的医療機関としての防災の取組		①	戸田市地域防災計画連携強化、防災訓練実施	10月にAEDを使用した訓練を実施した。 11月に災害用テント組み立て及び自家発電機訓練を実施した。 1月にトリアージ訓練を実施した。	-	
		②	災害用医療備蓄品の確保	災害用医療備蓄品を一覧にて管理を実施し、適宜入替を実施している。6月に粉ミルクの入替を実施した。	-	
(5)広報活動・人材育成の取組		①	広報・ホームページによる周知	毎月広報誌の医療だよりにて当センターの案内と市の救急医療について周知を実施。さらに、広報誌2月号特集ページで施設の周知を実施した。	12回	
		②	専門職の人材を活用した市民講座	9月、2月に小児救急市民講座を実施し、小児医師による講座、消防職員によるAED実技を実施した。	2回	
		③	看護学校等と連携し、外来・地域包括支援センターでの実習生受入。センター内の専門職間連携研修	・外来の看護実習はなかった。地域包括は、2か所の学校から(地域・在宅看護論の実習)実習生受け入れた。 ・センター全体研修は、テント設置、発電機の取り扱い、トリアージ、AED取り扱い、医療ガス研修と安全衛生管理の講義研修を行った。	・26人 ・8回	
		④	職員全員の市の業績評価制度における経営改革目標設定	各課の課長が期初面談、中間面談、期末面談を実施し、目標に向けた業務の進捗確認を実施した。	-	